

底部排出型遠心分離機

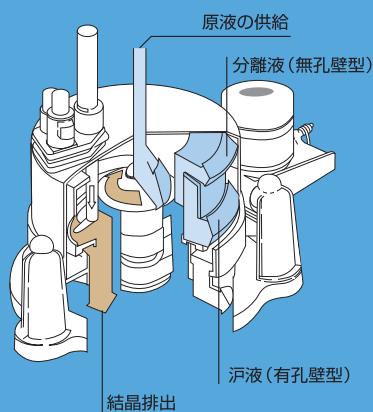
BOTTOM DISCHARGE TYPE CENTRIFUGE

分離固形物を本体底部より排出するこのタイプは、産業界の幅広い分野において生産、精製、回収などで採用されており、生産コストの低減、能率と品質向上および環境の整備に活躍しています。

- 処理物の性状や分離条件に合わせて汙過分離または比重分離の設定もできます。
- 接液部はステンレス製ですが、他にゴムライニング加工やテフロン加工を施すこともできます。
- 起動、高速回転(給液・脱液・洗浄)、制動、低速回転(搔落し)などの工程を自動的に行えます。
- インバータ制御により回転数、起動・制御時間を自由に設定できます。

動作

底部排出型遠心分離機の場合

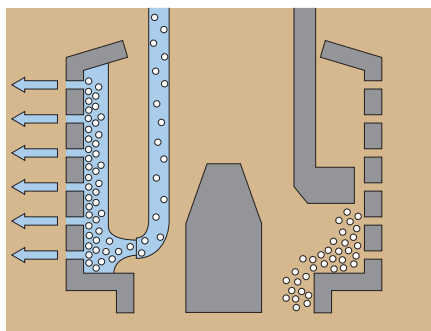


有孔壁タイプ
H-130MT

有孔壁タイプ

有孔壁タイプは汙材を張った有孔バスケットを採用し、懸濁液中の固形物と液分とを汙過分離する方式です。液分は汙材を張ったバスケット内を通過させ、固形分は汙材を張ったバスケット内に残留・集積させます。

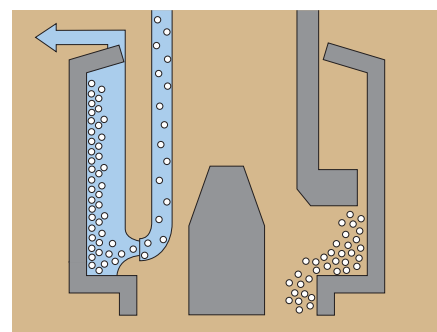
バスケット内に集積した固形物を底部より排出する機種を底部排出型といい、固体粒径が比較的大きい処理物の分離に適しています。



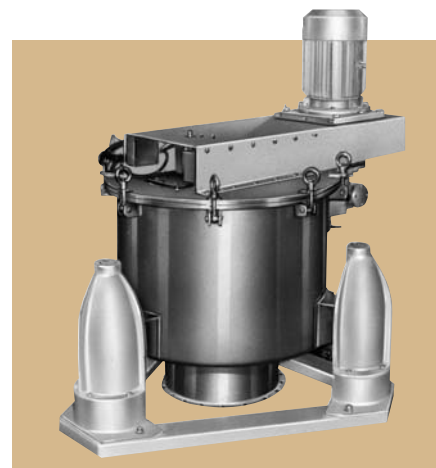
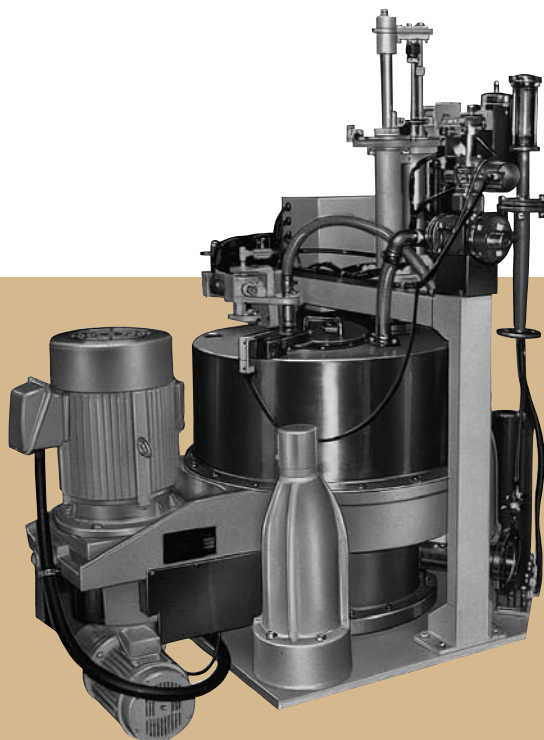
無孔壁タイプ

無孔壁タイプは無孔バスケットを採用し、懸濁液中の固形物と液分とを比重差を利用して分離する方式です。固形分はバスケット内壁に沈積し、清澄液はバスケット上部よりオーバーフローさせ排出します。

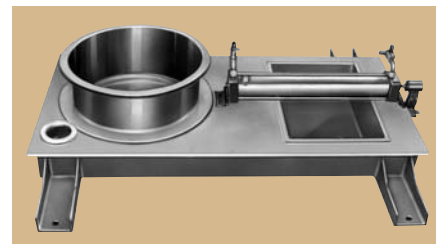
バスケット内壁に沈積した固形物を底部より排出する機種を底部排出型といい、固形物粒径分布がミクロン単位におよぶ広い範囲や液体粘度、固体圧縮性による汙材の目詰まりが生じやすい処理物の分離に適しています。



無孔壁タイプ
H-131LTH



▲上部駆動式遠心分離機(オプション)



▲受皿装置(オプション)

有孔壁タイプ(同機種で無孔壁タイプもあります)

Type	Basket Size (φ×cmd)	Basket Capacity (ℓ)	Max Speed (rpm)	Max Force (×g)	Motor (KW)	Dimensions (W×D×Hcm)	Weight (kg)
H-130IT	65.8×30	40	1,470	800	7.5	103×152×72.5(145)	1,200
H-130KT	76.2×35.5	66	1,370	800	11.0	114.5×168×81(168.5)	1,500
H-130MT	91.4×40	110	1,250	800	15.0	140×213×100(190)	2,500
H-130OT	106.7×46	167	1,150	800	18.5	155×232×110(202)	3,000
H-130PT	122×60	352	950	615	22.0	164×250×148(253)	4,500
H-130RT	152×65	605	840	600	45.0	★	6,000

無孔壁タイプ

H-130L ₁ T	65.8×30	40	1,880	1,300	7.5	103×152×72.5(145)	1,300
H-130K ₁ T	76.2×35.5	66	1,740	1,300	11.0	114.5×168×81(168.5)	1,600
H-130M ₁ T	91.4×40	110	1,590	1,300	18.5	140×213×100(190)	2,800
H-131L ₁ TH	65.8×30	40	2,600	2,500	11.0	112.8×172×151.8	1,300
H-131K ₁ TH	76.2×35.5	66	2,330	2,300	15.0	115×200×170	1,600

※H-131はL₁タイプの高速度型 ※Tは底部排出型、Hは高速度型 ★詳しくはお問合せ下さい。

